

2011年度第4回中等教育機関日本語教師研修会:報告

今回は、李金娟先生(台中市立恵文高校日本語教師)、呉承和先生(私立育達商業高校日本語教師)をお招きし、「文化理解を視野に入れた日本語授業のとりくみ」というテーマで研修を行いました。

日時:〈高雄会場〉2012年3月17日(土) 13:30 ~16:30 (交流会 16:30~17:30)

於)麗景酒店

〈台北会場〉2012年3月31日(土) 13:00 ~16:00 (交流会 16:00~17:00)

於)交流協会台北事務所日本語センター

参加者: 台湾の中等教育機関日本語教育関係者 [高雄] 17名、[台北] 27名

配付資料: 李金娟先生(1)(2) 呉承和先生(1)(2)

(PDF ファイル:Acrobat Reader が必要です。)

本研修会では、李先生による「文化理解を視野に入れた日本語教育の取り組み—台中市立恵文高校を例として」、呉先生による「日本語授業への試み—映像教材およびアニメの使用—」の二つの報告を中心に、生徒の学習意欲と日本語に対する興味を高める授業のあり方を考えました。

まず李先生から「ポスター発表」をとりいれた授業の実践報告として、テーマ決定からポスター制作までの準備段階、教室での発表、その後に行う校内コンテストまでの一連の流れが紹介されました。ポスター発表のメリットとして、素材が多様で入手しやすいこと、自律学習の動機付けのきっかけになること、チームワークでの役割分担及び個人の長所が発揮できること等があげられました。一方、指導時間の不足や、多彩なテーマに教師一人では対応しきれないといった問題の解決策として、大学の日本語学科と提携し、大学生をTAとして活用していくという方法も示されました。その後、実際に学習者が作製したポスターを素材に、その評価のポイントや活用法を考えるワークショップを行い、参加者同士で活発な意見が交わされました。

次に、呉先生から、DVDやアニメを利用して、日本人や日本文化に対する理解を深めていく授業が紹介されました。素材の一つ目は国際交流基金制作「エリンが挑戦!日本語できます。」で、1課分の構成や内容を視聴した後、自作の学習プリントと共にその活用方法が具体的に示されました。ふだんの授業では、所定の教科書で各課の学習が終わった後、その学習項目と関係がある「エリン」の課を対応させ、組み合わせる形で使用しているとのことでした。素材の二つ目はアニメ「あたしんち」でした。1話の長さが適当で、どのレベルの学習者にとっても日本人の日常生活が良くわかるため、スクリプ

トを起こして教材化したというお話に、「教材の準備にどのくらい時間がかかるのか」など具体的な質問が寄せられました。日本語を使って日本を知る楽しさを生徒自身が感じられる授業を目指す両講師の報告は、現場の教師にとって大いに参考になるものでした。

<研修会の様子>



李金娟先生



吳承和先生



ワークショップ実施中



李先生、吳先生を囲んで(以上、高雄会場にて)